

小田原

広

報

まちづくり情報誌



「恋するトップレディ」

主演：中谷美紀



小田原で撮るドラマ
ドラマで見る小田原

「プリティガール」 主演：稲森いずみ



探しています！

古写真・古絵図

（国指定史跡・小田原城跡）

往時の小田原城をしのばせる古い写真。この写真を手に、今の小田原城を重ね合わせれば、ほら、意外な景色が見えてきます。これらの古い写真、実はお城の復原の際にとっても重要な役目を果たしているのです。

国文化財保護課 33 1718

古い写真・絵図面は
復原の重要資料

国指定史跡に指定されている小田原城跡。市では、現在この小田原城跡の調査を行い、往時の姿をしのんでいたできるように整備を進めています。

平成9年に復原し、小田原城のもう一つのシンボルとして市民の皆さんに親しまれている銅門。この銅門が復原されたときには、発掘調査の成果や古い絵図とともに一枚の古い写真が重要な役割を果た

しました。このように、復原整備をする際に古い写真や絵図面は大変重要な資料となりますが、現在ごく限られた数しか知られていません。そこで、これらの資料をお持ちの方がいないか、広く市民の皆さんに呼びかけていくことになりました。

遠い昔の小田原城の新事実が、あなたのお宅に眠っているかもしれません。お手元にもし古い写真や絵図面がありましたら、ぜひご連絡ください。



1 銅門の貴重な一枚 <現在の写真(左)と当時の写真(上)>

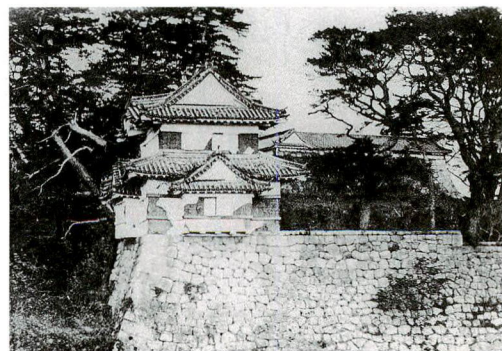
これは銅門が写っている唯一の写真です。このあとほどなく銅門は解体されてしまいました。しかし、石垣の高さや、門の屋根の格子窓の様子が鮮明に写されており、銅門復原の重要な情報を得ることができました。この一枚が残されていたことで銅門が復原できた、と言っても過言ではありません。(横浜美術館所蔵)



2 めがね橋の穴 <現在の写真(左)と当時の写真(上)>

一見よく見なれたお堀端の風景。でもよく見ると、石垣に黒い小さな穴が見えます。これは堀の水が行き来できるようにするための穴なのです。つまりこの写真は、めがね橋が、以前はめがねではないことを示しています。見落としがちなのですが、小田原城の整備を進めていく上で、とても貴重な写真なのです。

櫻木達夫編著「昨日の道 去年の坂」より



南曲輪西隅櫓(横浜美術館所蔵)

広報レポーターレポート

今回、広報レポーターとして、文化財保護課の大島さんのお話を聞きながら城址公園を歩いてみた。少し大ききかもしれないが、私はこれまでの認識をはるかに超えた、歴史の重みを感じずにはいられなくなつた。



私にとっての小田原城
田代朝美さん(浜町)

子どもたちがよく絵本を借りたり、紙芝居を聞かせてもらったりした図書館は、元はお城の一部である櫓だったという。旧三の丸小学校跡は、お殿様が寝起きする御殿であった。今はのどかな白鳥池がある常盤木門の周辺には大きなお堀があり、実はもっと高く石垣が積まれていた。さらに、動物園がある場所には、江戸時代に将軍様をお迎える宿舎があり、実際に三代將軍徳川家光公がお泊まりになったという。

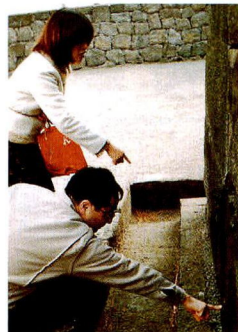
このような話に引き込まれているうちに、私の城址公園に対する印象が変わってきた。ここはやはり、城下町・小田原。先人の知恵と努力の結晶そのものなのだ。彼らはどのような思いでお城を築き、守ってきたのか。このようなすばらしい史跡を持つことに、私たち市民はもっと誇りを持つべきではないだろうか、

という気持ちになった。「さあ、今日はどこに行こうか」。小3になった長男と小1の次男を連れると、私たちは決まって、城址公園に行った。売店で物をねだられるのが難点だが、動物園に加え遊園地がある公園は、私たち親子にとってはほかならぬ貴重な遊び場なのだ。図書館に自転車置き、絵本などを読む。飽きれば外に出て銅門に行き、石垣の上に登って遊ぶ。子どもがお堀に石を投げた遊んだこともある。これはいけないことなので、もちろん注意をした。最近では、3番目の娘がおじいちゃんに連れられて、似たような城址公園の散歩コースを歩いている。城址公園は私たちにとって貴重な生活の中の一部になっているのだ。車の免許を取得していない私にとって、ここは近場で子どもと楽しめる最適のレジ

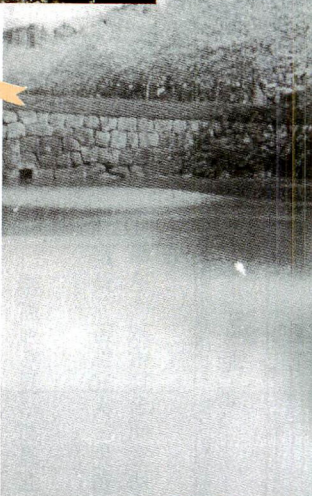
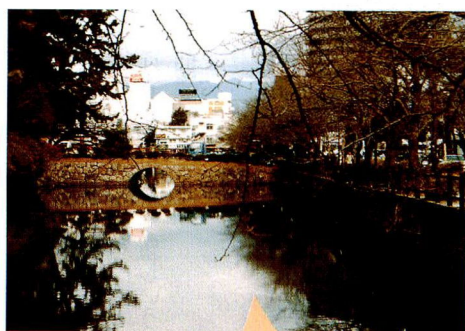
ヤー施設でもあるのだ。小田原城は小田原のシンボルである。丘の上にそびえ立つお城は、いつも私たち市民を見つめているかのようだ。今まで、何気なく見ていたお城だが、たったひとときのガイドを受けただけで、何だか光輝く宝物のように見えてきた。そこに大きな歴史の流れがあることを、深く考えたことがなかったからであろう。

先人たちが築き守ってきた尊い宝物は、私たちが受け継いで守っていくかなければならない。私はこれから先、城址公園を歩くときには、少しでも歴史の重みを感じていたいと思つた。そしてこれからの時代を築くであろう子どもたちに、それを感じてほしいとも思つた。そのためにはまず、郷土の歴史に目を向け、語り継いでいこう。小田原市民として、これから先の輝く未来に向かって...

貴重な写真を手にも、文化財保護課の大島さんに解説を受けながら小田原城を歩く、広報レポーターの田代さん。



古写真、ここがポイント!



貴重な写真を手にも、文化財保護課の大島さんに解説を受けながら小田原城を歩く、広報レポーターの田代さん。



古写真、ここがポイント!



古い写真・絵図面の提供を!

小田原城を写した古い写真や絵図などの資料を探しています。あなたの一枚が、歴史を変えるかもしれません。また、小田原城跡の新たな復原の手がかりになるかもしれません。これを機に、普段は開けない机の引き出しを開けてみてください。そして見つけた人はぜひお貸しください。あなたの一枚、お待ちしております。

対象 関東大震災以前の小田原城の写真や絵図面など
送付先 〒250-8555 小田原市教育委員会 文化財保護課 ☎33-1718
※資料として複写させていただきますので、原稿はお返しします。
詳しいことはお問い合わせください。

まちづくりは
「あたりまえのすべじや」から

政策総合研究所だより

小田原市独自の取り組み・自治体版シンクタンク「政策総合研究所」の取り組みについて、シリーズでお伝えしています。

問 政策総合研究所 ☎ 33 1 3 1 5

はるか古代からの贈り物

戦後の高度成長期の日本は、中央集権的な政策で世界第2位の経済大国となりました。しかしその一方で、全国を画一的なまに作り上げてしまった、という問題点も指摘されています。地域固有の文化や地域らしさを守りながら生活文化をつくっていくという考え方が、ある意味で犠牲にされてしまったからです。



研究経過を市長に報告する学生たち

地方分権が進む今、「地域の地域による地域のための調査研究」によって、そこに住む人が主体となり、外部の人の視点や助言を得ながら、地域のことを知り、地域の個性を自覚するという新しい動きが始めました。ここでは、建物などのハード面を最優先した地域づくりを見直し、農林漁業者や商人、職人たちが担ってきたものづくりの大切さや、そこに培わ

れた生活文化を再認識することが求められます。それは、「口ごろ意識していない地域のあたりまえの重要さに気がつくこと」とも言えるかもしれません。今、目の前にあるすべての「あたりまえ」のものは、この地域の風土の上に、はるか古代から途切れることなく営まれてきた暮らしと文化創造の結果なのです。まちづくりは、この「あたりまえのすべじや」を、住む人すべてが認識することから始まるのです。

小田原遺産調査で地域を再発見

政策総合研究所では、昨年から主に旧東海道周辺地域を対象エリアとする調査を行ってきました。この地域の「らしさ」や「固有の資産」を探り、その「場の力」を生かしたまちづくりを模索するための研究です。

特に、歴史的建造物などを核とする美しい街並み景観を未来に残すというハード面と、産業文化と生活文化の交錯する「なりわい」を核とするソフト面の双方に着目しました。今年度は、「小田原遺産調査事業」としてハード面を中心とする基礎的・基盤的調査を進めながら、公開研究会などを通じて「なりわい」文化の継承と再生の手法を検討してきました。小田原遺産調査では、小田原遺産、小田原の歴史・産業・生活の文化を象徴し、近代に継承すべきものごとのリストアップと、地域の



人々の聞き取りによる「オーラルヒストリー調査」により、情報を収集しています。昨年12月25日には、これまでリストアップした具体的事例をもとに、市長や助役、市の職員などに対して中間報告を行いました。調査には、工学院大学・東海大学・東京大学・早稲田大学の研究室と学生の協力もいただいております。中間報告も各大学の学生を中心に行われました。今はまだ、調査の成果は単なる資料にすぎませんが、今後のまちづくりの方向性を決める場面で生かされるよう、いろいろな手法を考えていく予定です。

また将来的には、市内の各地域で、市民の皆さん自身が地域再発見の活動に取り組み、意味やあり方などを考えたり、さらに深く調べたりできるような、新しいうねりが起きることを期待しています。

第3回おだわら車座、開催!

市民ラボ(研究室)では、特に「なりわい交流によるまちづくり」に着目して、これまで2回の公開研究会「おだわら車座」を開きました。第1回では、なりわいの資産を発見する散歩を通じて、かつて小田原に存在したなりわいのサイクルが途切れていることが指摘されました。第2回では、作り手の側からなりわいの再生を考えました。第3回では、使い手側からなりわい再生について考えていきます。

第3回 おだわら車座
期日 2月23日(土)
場所 郷土文化館

○第1部 13時〜16時30分
なりわい散歩と食彩会
「発見! なりわい歳時記」

文人粋人が愛した西海子地区のたずまいを、見て・聞いて・感じてもらいながら、詩・句・歌などオリジナルな物語を参加者につづっていただきます。

○第2部 18時〜20時30分
小田原評定スタジアム
「なりわい再生は市民の手で」

「使い手の知恵を探る」をテーマに、料理や趣味で日常何気なく接している自然の恵みを「なりわい」の視点から見つめ直します。

定員 各部30人・先着順
申込 政策総合研究所 ☎ 33 1 3 1 5

*市民ラボについての活動や詳しい内容については、次回このコーナーでお知らせします。



地球にやさしい ライフスタイルを

21世紀は、社会全体で環境保全に取り組む時代です。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの環境問題は、企業活動のみならず私たちの日常の暮らしが原因にもなっています。

問 環境保全課 33 1 4 8 1

環境にやさしい買い物を

環境にやさしい買い物を考えるときは、必要性をよく考え、価格や品質だけでなく、環境に配慮した商品を買うこと（グリーン購入）も大切です。使い捨て商品ではなく長く使える商品を選んだり、再生品や使ったあとにリサイクルできる商品を選んだりすることを心がけましょう。また、四季折々の旬の食材や地場の商品を買うことも、外国や国内遠方からの運搬にかかるエネルギーの節約などに役立つため、環境にやさしい買い物と言えます。



ままでは最終処分場がいっぱいになってしまいます。毎日の生活の中で、ごみを減らす工夫や、利用できるものは再利用して、リサイクルのための分別を徹底するよう心がけることが必要です。

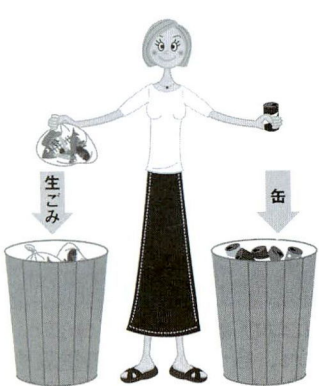
水の循環利用を

地球上の水は海水が97・5%で、淡水は2.5%です。淡水の大部分は氷河や氷山で、人間が利用できる水は、わずか1%にもなりません。水資源は地球上では貴重なものであり、大切に使うことが重要です。

お風呂の残り水は、洗濯や散水に使えます。

水を磨くとき、水をコップにくんで磨くだけでも節水になります。

また、シャワーはほかと比較にならないほど大量の水を消費するため、1分間水を止めるだけで、約18リットルの節約になります。シャワーを使うときはこまめに止めましょう。



ごみの減量と再利用を
平成12年度の小田原市のごみの量は、およそ8万6千トン。人口一人あたりに換算すると、一日約1kgのごみを出していることになり、この

地球に暮らす人間の責任として、環境を視野に入れたライフスタイルを考え、行動していきましょう。

2月は省エネルギー1月間です。

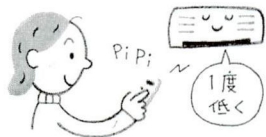
冬のエネルギー需要は年々増加し、夏と並んで、エネルギー消費の最も多い時期です。皆さんも省資源・省エネルギーにご協力ください。

●環境家計簿をつけてみよう！

環境家計簿は、家庭で使う電気・ガス・水の節約などを日常的なこととして身につけ、環境にやさしい生活を考えるために行うものです。ちょっとした気づかいが大きな節約となり、家計の助けにもなります。ぜひ挑戦してみてください。詳しくは広報紙と一緒に配布された「ゴミダス」をご覧ください。

●冷暖房を控えましょう

カーテンを厚手にしたり着るものを工夫したりして、冷暖房を1℃分減らせば、一年間で約2,000円の節約になります。



●太陽の恵みを利用

天気の良い日には、カーテンを開け太陽熱を取り入れると暖房効果があります。また、太陽光発電システムや太陽熱温水器を利用するのも、エネルギーの節約に効果的です。



●エコロジードライブに努めよう

通勤や買い物を徒歩や自転車に替えてみましょう。また一日5分ほどの無駄なアイドリングをやめると、一年間で約2,800円の節約になります。急発進、急加速も燃料の無駄遣いです。



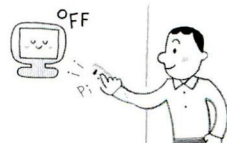
●シャワーは短めに

シャワーの時間を一日1分減らすと、一年間で約840円の節約になります。体を洗っている間、出しっ放しにしないようにしましょう。



●テレビのつけっ放しにご注意

見る必要のないときにもテレビをつけっ放しにしていますか？一日1時間テレビの使用を控えると、一年間で約1,000円の節約になります。



※財省エネルギーセンターの資料をもとに作成しました。ご使用になる機器の種類や使用方法、環境などによって変わりますので、大体の目安としてください。

地域とともに生きる 子どもたち

教育連載
vol.2



米神の「鹿島踊り」

広がる！ 交流の輪
く片浦小・中学校く

昨年6月、片浦小の体育館で開かれた「片小まつり」は大変な熱気に包まれました。子どもたちと地域の人が一体となった、「鹿島踊り」の輪ができたのです。

「片小まつり」では例年、環境問題にこだわったフリーマーケットを行っています。「もっとたくさんの人に来てもらいたい」と考えた子どもたちは、

地域の人たちにもっと喜んでもらうと、それぞれの地域にそれぞれの形で伝わる伝統の「鹿島踊り」を再現することにしました。鹿島踊りは、このあたりの地域に古くから伝わる、石材や木材の海上輸送の安全を祈願するための踊りです。7月の第3日曜日に行われる根府川の寺山神社のお祭りが有名ですが、地域ごとに特色のある踊りが伝わっているのを、自分たちでやろうと考えたのです。これは初めての試みであり、子ども

学校が地域から力を借りる学習から、地域と一体となって、ともに学び高まっていく学習へ。地域と主体的にかかわることで、子どもたちの「生きる力」は育まれ、自分のまちへの愛着も生まれます。

◎学校教育課 ☎33-1684

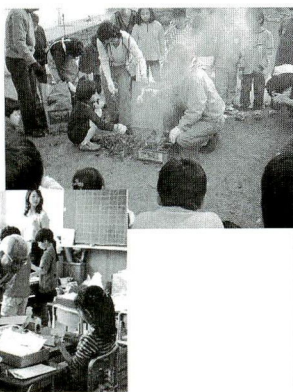


←江之浦の「鹿島踊り」

→7月に根府川で行われた「鹿島踊り」



→焼きいも作り



海岸清掃

育て！三の丸っ子 く三の丸小学校く

三の丸小学校は古くからの街並みの中にあり、地域には、商店や、幼稚園・保育園・行政機関といった各種の施設、歴史的な文化遺産などがあります。そのため、学習を進めていく上で、いろいろと活用できそうな素材や人材に恵まれています。そこで、その利点を十二分に生かし、地域に住むいろいろな人とともに授業を作っていくことで、「心豊かでたくましく創造性にあふれた子どもたち」、そして「地域を愛する子どもたち」を育てていこうと考えています。

今年度の運動会では、地域の年から教わった「えっさホイおどり」

市長随想

文 小澤良明

新年の仕事始め式が近くなると暮のうちから、何を伝えたいのか、何を話そうか、いつも頭のどこかにあって緊張している。市職員の大抵が一堂に会し、肉声で市長としての想いを語れるのはこの場だけと言っても過言ではないからである。

まさに世紀の変わり目というべきか、どこをとらえても判断の根拠をなす基盤が不確かで、正解など簡単に出てきようもない今、しかしだからと言ってただ漫然と手をこまねているだけでは済まされない今を私達は突き進んで行かねばならない。あちこちする思考の中で私は、このような混沌の時代にはまず原点に戻る、世界が人間一人ひとりの意志や行動の集積で動くものならば、結局のところ、人と人、心と心の繋がりが、「絆」を大切に適時適切に対処していく以外に道は無いと確信したのである。

家族や友人同士の絆は言わずもがなで一番奥深いものであろう。

少子高齢社会、ボランティア社会の中での市民間の絆、行政と市民とのパートナーシップ、行政と企業市民やNPOとのコラボレーション（協働）、自治体間の広域交流や連携、市町村合併を模索する湘南市構想や、本市と下郡三町との西さがみ連邦共和国の建国はその新しい絆の最たるものである。国と地方もまた然りである。地方分権や規制緩和のとうとうとした流れの中で、これからの国のあり形、まちづくりの進むべき姿

教育、私はこう思う！

静かなる教育論議にぞくぞくご意見。

寒い日が続くと思い出すのが、「子どもは風の子」という言葉ですね。たくましい子どもを育てる苦労は、いつかこの小田原の「人づくり・まちづくり」につながっていきます。 〇教育総務課 ☎33-1671



教育、私はこう思う！
vol.3

テーマ 「子育てと教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

古いものの大切さについて

新しいものも結構ですが、何十年何百年と古くから続いている「礼儀作法」や「ことわざ」など、親から子へ、子から孫へと語り、受け継いで大切にしてほしい。今のままでは、日本の未来はでたらめになってしまうでしょう。温故知新。

子どもらしさについて

小さなころから大人の言うことを良く聞かせるお利口さんな子。でも裏返せば大人にとって都合のいい子。そういう子どもは、人の顔色で行動する調子がいい大人になりそう。多少わんぱくでも自分で考えて行動し、感情を表現できる子どもであってほしい。大人もそ

ういう子どもを受け入れられるよう努力しなくては。

しつけについて

しつけというと、大人が子どもに教え、たたき込むようなイメージがあるが、そのイメージこそが子どもに反発を与えるのではないだろうか。子どもが「～したい」と言う。大人はすぐに言うとおりにせず、「ちょっと待って」と一呼吸おく。そこで、我慢を覚える子ども。しばらくして「待っていてくれてありがとう。じゃあ、～しよう」と子どもに投げ返す。我慢したらほめられ、うれしくなった。そんなイメージのしつけでないと成長していかない。折檻など、もつてのほかである。

親子のスキンシップについて

私たち(60歳代)のころは、子どもをおぶったりだっこしたりと、親子のスキンシップが多かったのですが、近年、ベビーカーなどの普及で薄れているように感じます。親子のスキンシップを大切にしてください。

子どもへの虐待について

若い親による、子どもへの虐待などの事件が多い。このように無責任な親が出てくるのは何故だろうか。この世代を教育し育てたのは、我々の世代である。親としてどういうしつけをして育てたのか、教育者はどんな教育をしてきたのか、当時の社会状況もみながら反省してみる必要がある。

人は、幼児期の育てられ方で、人生の方向を左右されることが多いようです。

ほかの人の意見から感じたことなどを、近くの人と話して調べてください。支所・連絡所などに置いてある「意見カード」でのご意見もお待ちしています。小田原市ホームページの「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」でも受け付けています。

投稿フォームアドレス

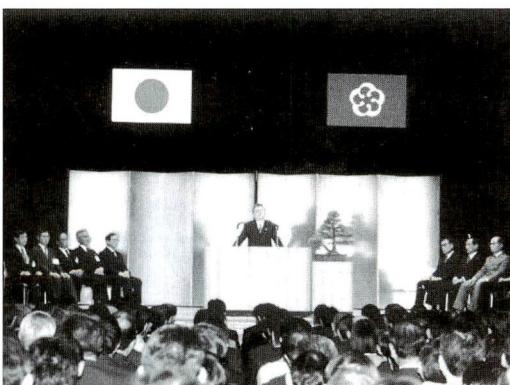
<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/index.html>

を踊ったところ、地域のイベントからも「ぜひ踊ってほしい」とお誘いがかかりました。子どもたちも「みんなで踊ろう」と参加を呼びかけ、保護者の人にもご協力いただき、とても好評でした。そのほか、地

域の人に教えてもらいながら野菜やお菓子を作ったり、学区内にある城址公園や海岸を一緒に掃除したりしました。また、さまざまな学習テーマのもとで、地域の自然や文化、現在の実態などを調べたり、

幼稚園や老人施設を訪問したりしています。こういった取り組みの中で、子どもたちは少しずつ「地域の中での自分」というものを考え始めてきています。これからは、地域の人た

ちとともに、地域の中の学校としての困難にくじけることなく立ち向かっていけるたくましい心を持った子どもたちを育てるために、力を合わせて取り組んでいきます。



が問われ、さまざまなパイプがかつてなく必要とされている。どう考えても「絆」こそ二〇〇二年のキーワードなのである。一月四日、今年も満場の職員が醸し出す厳肅な雰囲気の中で、私なりに言いたいことや想いのだけを率直に語ることができた。

「市長さん、絆にも切っ捨てなければならぬ絆もありますよ」。ある場所である人の言である。「それはどちらかというところからみ」と言った方が良いんじゃないですか。咄嗟の私の応えである。「絆」の語源は馬や犬をつなぐ綱で、転じて断つことのできない結びつきを言い、「しがらみ」の語源は水流をせき止める為に柴や竹をからめた柵杭で、転じて物事を引き止める、せき止めるものと言う。適否は別として変にこのやりに拘ってしまつたのも「絆」という言葉にそれだけ私なりの思い入れがあったからである。いづれにしても過去の悪いしがらみは断固伐り、今は細いそれぞれの糸であっても着実にかつ精力的にまちづくりの太い「絆」を縫り



森を守ると いうこと

～環境ボランティア協会の活動から～

全国に先駆けて数々の先進的な取り組みを行い、環境先進都市として、全国でもトップクラスの評価を受けている小田原市。その環境施策を支えているのが、環境ボランティア協会などをはじめとする市民の皆さんの活動です。その一つとして、小田原の森を守るために幅広い事業を展開している団体の活動を紹介します。

☎環境総務課 ☎33-1471



「心地よい森づくり」の枝打ち体験教室の様子。市内久野の山林で枝打ち・間伐を体験した子どもたちは、森の大切さと自然のすばらしさを学びました。

環境ボランティア協会の活動

「環境ボランティア協会」とは、市内で環境関連のボランティア活動をしている個人やグループの集まりです。川や海などの清掃やメダカなどの生き物を守り育てる活動、リサイクルを進める活動など、幅広い分野の人が加入しています。協会では「エコポスト」という機関誌を発行したり、市内の各種イベントに参加したりするなど、自主的な環境事業を展開しています。これから紹介する「森のなかま」も、環境ボランティア協会に加入しているグループの一つです。

「森のなかま」の森づくり

「森のなかま」は、森の大切さを一人でも多くの人に知ってもらうため、市内の山林で枝打ち体験教室などを行っているグループです。昨年12月には、「心地よい森づくり」と題して、環境ボランティア協会により、久野の山林で枝打ち体験教室が開かれました。小学2年生から60歳代までの約50人が参加し、「森のなかま」のメンバーをはじめとする森林インストラクターの指導のもと、枝打ち体験やソメイヨシノの植樹、チェーンソーによる間伐などを行いました。



今後は、体験教室などを継続して開いていくほか、間伐材の活用や、市内の荒廃した森を実際に再生していくための活動について、研究を行っていく予定です。

「森のなかま」のメンバーである山本さんに、その活動や森に対する考えなどについてうかがってみましょう。



森を守るということ
～環境ボランティア
協会の活動から～

手を入れることの大切さ

山本和子さん(小学校教諭)



きっかけはスランプ

森って本当に大切な役目を果たしているんですよ。木は地球に酸素を供給してくれま
すし、森は雨水を蓄えてくれます。蓄えた水
は地下水となり、やがて湧き水となってゆっ
くりと流れ出ます。この流れが川をつくるの
です。森がなくなれば私たちは生きていくこ
とができません。だから私たちは森を守らな
くてはいけません。

私は教師をしているのですが、以前にスラ
ンプのような時期がありました。そのときに
森林インストラクターの募集記事を読みまし
た。たまたま親戚にそのようなことをやって
いる人がいたので、興味もあってすぐに申し
込みをしたのです。試験に合格してからは、
毎週土・日曜日は森の中に入って、枝打ちや
間伐の講習を受けました。これが森づくりへ
の参加のきっかけでした。今では自分自身が
驚くほど、森づくりに夢中です。森に入ると
気持ちが落ち着き、自分らしく生きられるよ
うな気になります。自分らしさをとりもどす
ことで、教師としての自分を見つめ直すこと
にもなりました。

森を守る人の輪づくり

森や山林というのは、人が手を入れてあげ
ることで、とても元気になります。雑木林と
言っても、放っておくと全滅してしまうこと

もあるのです。木が密集しすぎると、地面ま
で太陽光線が届かなくなり、せっかく地面に
落ちた木の種子が育たなくなります。そこで
間伐をします。一度人が手を入れた森林は、
なおさら手をかける必要があります。木を植
えさえすれば、簡単に森ができるというもの
ではないからです。雑草や草木に埋もれてし
まわないように、下草刈りを定期的に行わな
ければなりませんし、からみついたつるなど
を切り取る「つるぎり」や、枝打ちなどをし
なくてはならないのです。

小田原にもまだまだ放置されたままの荒れ
た森林がたくさんあります。森を守ることが
大変なこと。ですから、私たちの活動も、単
に体験教室で「楽しかった」と感想を持って
終わってしまうのでは意味がありません。本
気で森を守ろうという人の輪を広げていくた
めにどうすればいいか、これから一生懸命考
えていきたいと思っています。



今月の表紙

小田原で撮るドラマ ドラマで見る小田原

1月から始まった二つのテレビドラマの撮影が、市内で進められています。

「恋するトップレディ」の中谷美紀さんは市長役、「プリティガール」の稲森いずみさんはデパートの店員役なので、毎回のように市役所や議場、ダイナシティウエスト・ロビンソン百貨店が登場します。

市では、このようなドラマのロケに協力することで、小田原の都市イメージを全国に発信していこうと考えています。

ブラウン管を通して見る小田原は、皆さんにはどのように映っていますか？

「恋するトップレディ」

フジテレビ 毎週火曜日 22:00～

「プリティガール」

TBS 毎週水曜日 22:00～

広報おだわらが 県広報コンクールで 3年連続最優秀

平成13年神奈川県広報コンクールの広報紙・市部で、広報おだわらが3年連続で最優秀を受賞しました。

受賞したのは平成13年8月1日号の「酒匂川物語」。市の中心を流れ、流域にさまざまな恵みをもたらしてきた酒匂川の歴史や環境などを、いろいろな視点でとらえながら、流域のまちづくりや他市町を含めた広域圏のまちづくりの可能性について考えようと、特集を組みました。受賞号は県代表として、全国広報コンクールに推薦されます。



☎ 広報広聴室 ☎ 33-1261



「森のなかま」の仲間募集

「森のなかま」では、森を守るための各種イベントに企画段階から参加してくれる方を募集します。詳しくはお問い合わせを。

申込 代表・小清水 ☎ 36-7588



気軽に活用しよう!!

おだわら市民活動サポートセンター

問 おだわら市民活動サポートセンター ☎ 228001

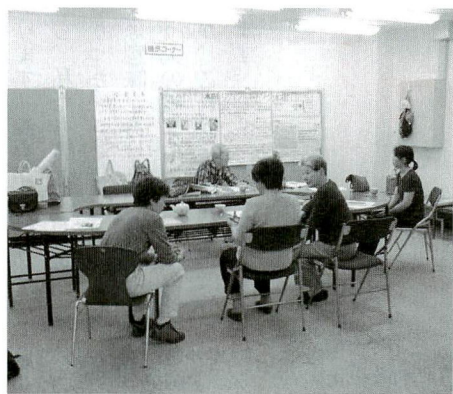


昨年4月にオープンした「おだわら市民活動サポートセンター」は、市民活動やボランティア活動を支援する施設です。すでに活動している

人や団体、これからボランティアを始めようと考えている人、趣味や特技を人のために生かそうという人が、活動の拠点としてたり情報を集めたりするのに、とても便利な場所です。

少人数の打ち合わせや待ち合わせにちょうどいい交流サロンや、インターネットができるパソコンは予約不要。操作が苦手な人には係員がお手伝いしますので、気軽に使えます。また、ボランティアや市民活動に関する情報が集められ、団体からもお知らせや会員募集ができるコーナーや、自分たちの作品を発表できるコーナーがあります。

この施設に使用登録した団体は140を超えました。11月に開かれた

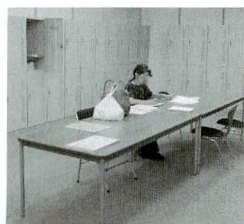


交流会では積極的に情報交換をする姿も見られ、皆さんの市民活動の輪を広げる場として活用されています。施設に登録すると、予約が必要ないミーティングルームや、作業に使えるワーキングコーナー、事務用品を保管できるロッカーなどが使えます。気軽に利用して、活動の幅を広げましょう!

利用時間 9時～21時30分
場所 小田原市民会館4階
休館日 月曜日・休日の翌日
12月29日～1月3日

《予約が不要なもの》

- 交流サロン
- 情報コーナー
- 展示コーナー
- パソコン
- コピー機 (A3サイズまで)
- コピー (1枚)
- レターケース・OHP・スクリーン・テレビデオなど
- ミーティングルーム2室 (定員各30人)
- ワーキングコーナー (50人までの会議も可能)
- 印刷機 (製版1枚100円。用紙持参)
- ロッカー (月額 大3000円・小2000円)



小田原市史 別編「自然」発刊

次世代に伝えたい豊潤なる小田原の自然

2月1日、発売開始!

図書館 ☎ 238510

『小田原市史』では、これまでに史料編9巻(完結)、通史編3巻(完結)、別編1巻を刊行してきました。

今回刊行した別編「自然」は、「地形・地質」「気象」「植物」「動物」「海の生物」の5編立ての構成で、小田原地域の自然の特性をわかりやすく記述しています。小田原で見られるさまざまな動植物などを、1,500点にも及ぶ貴重な写真や図版を用いて、オールカラーで親しみやすく表現しました。市史自然編をオールカラーで刊行したのは、県内初のことです。

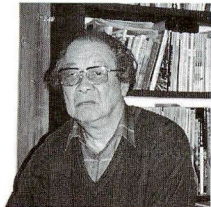
規格 オールカラー B5判 486ページ
 価格 4,000円
 販売先 市内書店、行政情報センター(市役所4階)、市立図書館、かもめ図書館、小田原市公益事業協会売店



編集にあたって

市史編さん委員

小田原市自然調査団代表 松浦正郎さん



この「自然」編は、私たち小田原市自然調査団の長期にわたる丹念な調査資料と、最新の研究データに基づいて、その成果をまとめあげたものです。小田原の自然の姿をありのままに写し取り記録するという図鑑的な要素と、小田原の自然環境の成立過程、歴史や生活環境の基盤ともなる自然と人間がどう

かわってきたのかという点、そして将来に向けての快適な環境づくりや人づくりなどの課題までも視野に入れて執筆しました。ぜひ、子どもたちから大人まで、いろいろな年齢の市民の皆さんに読んでいただき、温暖な気候と、海と緑と水に富んだ風光明媚な小田原の自然を実感していただきたいと思います。そして、この豊かな自然と調和した、これからの小田原を考えるきっかけにしたいだけばうれしいです。

完全学校週5日制を迎えて

子どもが参加できる 団体・サークルの 情報を募集!



申込 生涯学習課 ☎ 33-1721

今年4月から、毎週土曜日と日曜日が休みとなる完全学校週5日制がスタートします。生活に「ゆとり」を持たせ、家の手伝いなどの生活体験や、野外での自然体験、ボランティア活動などを通じた社会体験、文化・スポーツ活動といったさまざまな活動や体験を子どもたちがすることで、豊かな心と生きる力を育てようとするものです。

市では、小田原の子どもたちの未来に関心と責任を持つ市民を育て、健全な地域社会を作るため、市民の皆さんと一体となって「静かなる教育論議」を進めています。この中でも「子どもには、自然体験や親子一緒に行う体験が必要だ」という意見が多く寄せられています。子どもたちのライフスタイルも大きく変わろうとしています。子どもたちが、自分で考えて判断し行動する力や、豊かな人間性を身につけるためには、親子のふれあいや友達との遊び、地域の人との交流などは、今まで以上に大切になります。そのためにも、家庭や地域社会が一体となってその役割を發揮し、子どもたちを取り巻く環境を整える必要があります。

そこで、子どもたちが「何かやりたい」「学びたい」と思ったときに参加できる、学習・スポーツ・趣味などの情報を、子どもたちに紹介していく予定です。小・中学生を対象に活動している団体・サークルの皆さん、豊かな心と生きる力を兼ね備えたたくましい小田原っ子を、一緒に育てましょう。

●提供していただく情報

- ①団体・サークル名
- ②主な活動日時・場所
- ③活動内容
- ④対象年齢
- ⑤問い合わせ先

(代表者の氏名・住所・電話番号)
 ※学習塾・おけいこ・教室など、営利を目的とした情報はお断りします。

申込 2月28日(木)までに、郵送・ファックス・Eメールで。

〒250-8555
 小田原市教育委員会生涯学習課
 ☎ 32-7855
 Eメール
 shogaku@city.odawara.kanagawa.jp

「我ら小田原応援団！」小田原評定衆からのメッセージ

各地で小田原の情報や魅力を発信してくださっている「小田原評定衆」の皆さん。
今回は、さまざまな分野でご活躍中の女性の評定衆の方々に、小田原への期待を寄せていただきました。
☎市民交流課 ☎33-1706

●ボランティアの輪を広げたい

なかいきょうこ
中井 恭子さん

横須賀市在住、
横須賀市生涯学
習ボランティア



ボランティア活動を通して小田原と縁ができたという中井さんは、横須賀市の「生涯学習ボランティア」を務めるだけでなく、仲間同士でも盛んに活動しています。「『生涯学習めだかの学校』と言って、仲間が先生になったり生徒になったりするんです。小田原は、行事や活動の場などが広報紙に多くとりあげられていて、生涯学習やボランティアの応援に力をいれているように感じます。小田原の皆さんとも、ボランティアの輪を広げていけたらいいですね。」

●自然の美しさや歴史的雰囲気の魅力

こだてしずえ
小館 静枝さん

東京都在住、小
田原女子短期大
学学長



四季折々の自然の美しさや、お城を中心とした歴史的雰囲気などに魅力を感じているという小館さんは、小田原への期待も大です。「駅が新しくなるというのは嬉しいです。せっかくの機会なので、関係機関で協力し合って、色や看板なども整理し、すっきりとした雰囲気を作り出してほしいです。また、観光めぐりの足の便や休憩所をこれからも整備して、点在している文化施設や史跡が生きてくると、ますます良いのではないのでしょうか。」

●城下町らしい落ち着いたまちに

あんざいれいこ
安斎 礼子さん

南足柄市在住、
茶道教授



「県内外での茶会や京都での会合の折に、お仲間などに評定衆の名刺を渡しています。関西で、小田原まで新幹線で2時間ちょっととお話しすると、びっくりなさいます。日帰りも可能ですよ、と宣伝しています」。小田原に来たらお城を見てほしいという安斎さん。「できれば、駅周辺の歩道を整備して、市の花・梅の並木道にでもして、城下町らしい落ち着いたまちになったらいいと思います」と、茶人らしいお言葉をいただきました。

ペットたちは、私たちの心をいやしてくれる大切な存在です。飼い主にとって何にも代え難い存在だからこそ、ただかわいがるだけではなく、最期まで面倒を見るのが、義務であり責任です。

犬や猫の新たな命を望まないときには、不妊去勢手術をしましょう。この手術をすることで、①発情期に夜鳴きをしなくなる、②不要な子犬・子猫の飼い主を捜す必要がなくなる、③けんかをしなくなる、④尿をかけたたり遠出して迷子になったりするものが減り、遠吠えが少なくなる、などの効果が期待でき、他人に迷惑をかけることも少なくなります。

また最近、日本に本来いるはずのない動物が捕獲される例が増えています。これらの動物の大部分は、ペットとして飼われていたものが、捨てられたり逃げたりしたものだと思われまます。このままの状態が続くと、生態系へ深刻な影響を与えるだけではなく、動物によっては人間へ危害を加えることも考えられます。

ペットを飼うことは、すべて飼い主の責任です。他人に迷惑や危害を及ぼすことのないよう、十分な心配りと正しいしつけで、最期まで責任を持って飼うようにしましょう。



ペットには愛情と責任を

環境総務課 ☎331475
県動物保護センター ☎0463583411



●近所に迷惑をかけていませんか？

- ・犬小屋はいつも清潔に。
- ・運動を忘れずに。運動不足がストレスになり、むだ吠えをします。



●ふんは飼い主が責任を持って始末しましょう。

- ・散歩のときは、紙・袋などを用意しましょう。
- ・排便のしつけをしましょう。



●犬の放し飼いはやめましょう！

木象嵌で木のささやきを識る

木象嵌を知ること
木を識ること

木象嵌は、絵に合わせて切り抜いた木をはめ合わせ、カンナで削って作った薄い木の絵のことで、木の地肌の風合いや色を生かして図柄や絵を表現する木工芸品です。山水などの風景画、花鳥、動物、浮世絵などに題材を取り、額装して飾ったり小箱などに張ったりして使われます。

作するためには、まず下絵を考え、その下絵に合った木を選びます。ここで大切なのが、材料となる木の選び方です。その後の工程で、糸鋸ミシンで切り抜いたり、薄くスライスしたりするため、色合い



神奈川の名工にも認定されている内田定次さん(南町)

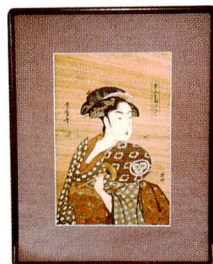
小田原・箱根地方の木象嵌は、江戸時代の手彫りによる「彫り込み象嵌技法」が元とされています。その後、明治中期に、箱根湯本の白川洗石により、現在の形である糸鋸ミシンを用いた「挽き抜き象嵌技法」が開発されました。また、明治末期には、特殊なカンナを使って完成品を薄くスライスする技術が確立され、量産が可能になりました。木を使った象嵌細工は日本以外でも作られています。この薄くスライスする技法は、小田原・箱根地方のみで取り入れられている技法で、世界でもほかに類を見ません。

小田原・箱根地方の木象嵌技法は世界唯一

ただでなく、木目や繊維の方向なども考慮して吟味する必要があります。そのため、製作に当たっては、高い技術はもちろんですが、木材に対する豊富な知識も必要となります。



金太郎



歌麿「高島おひさ」



歌麿「ポップンを吹く女」

木象嵌をこの目で見よう！ 木象嵌特別展 開催

神奈川の名工にも認定されている内田定次さんの作品のほか、木画会の皆さんの作品を展示・販売します。また、木象嵌コースターづくりの体験教室(材料費実費100円程度)や、香川一朝さんと仲間による尺八の演奏会(16日のみ)を行います。

日時 2月16日(土)・17日(日)

10時~17時

場所 小田原宿なりわい交流館
産業政策課 ☎331515

小田原の自慢のお菓子が勢ぞろい 菓子展示会

産業政策課 ☎331515



お菓子屋さんをのぞくと並んでいる、美しくおいしそうなお菓子。旬の素材を生かした洋菓子も、菓子そのもので季節感を表現した和菓子も、どちらも素敵ですよ。

小田原のまちに梅の香りが漂う2月に毎年開かれる「菓子展示会」では、市内のお菓子屋さんが自慢の和洋菓子を展示・即売します。

見どころは、菓子職人が腕をふるって創作した「かざり菓子」。素材はすべてお菓子の材料で、職人技のすばらしさを感じることができます。

小田原は、城下町という土地柄、茶会が盛んで、四季折々さまざまな茶会が催されたと言われていました。特に、茶の湯を好んだ大久保城主は、茶会を盛んに開き、城に菓子を納める職人を手厚く処遇しました。それで、優れた菓子職人が小田原に集まってきました。小田原が県下でも有数の優れた和菓子処であるのは、このような歴史もあるからです。

菓子展示会では、和菓子と抹茶を楽しむお茶席(土日のみ)や、懐かしいレトロ菓子の即売、手作りのおやつ教室も行います。ゆつくりお茶を楽しんで殿様気分を味わってみたり、子どもたちもこの駄菓子屋さんに並

んでいた懐かしいお菓子を見つけたら、芸術品のようなお菓子をゆつくり眺めたりと、楽しみ方は人それぞれ。城址公園の梅と一緒に、堪能してください。

日時 2月22日(金)~24日(日)

10時~17時

(24日は16時30分まで)

場所 市民会館





「私の昭和映画史」

ひろさわ えい
廣澤 榮
岩波新書



「サンダカン八番娼館・望郷」の一場面
(写真提供：東宝株式会社)

父の手を振りきってつっ走った。そこは思いもよらぬ真つ暗な世界であった。
そのくらがりにも一歩踏みこんだ途端、ぎくつと立ちすくんだ。たどえような恐怖におそわれて、四歳の私は声をたてることもできなかつた。

スクリーンには奇怪な楯をもち槍をかざしたアフリカ原住民の顔が大写しになっていた。彼らが打ち鳴らす太鼓がどどとと地鳴りのようにとどろき、真つ黒の顔に白い塗料で毒々しく隈取りをした目玉がぐつと迫ってきた。

一歩遅れて父がやってくる。私はわあつと大声で泣いてその胸にしがみついた。父は驚いて「どうしたう」となだめたが、私はなお声をあげてせがりあげていた。

一九二九(昭和四)年の二月、神奈川県小田原町にあった活動常設館、富貴座のくらがりであった。

(略)
その青白い光はまるで魔法のようだった。その光の中に細かい塵埃がひらひらと舞い、煙草の煙がふわつと渦をまいていた。

私はこのとき以来、この光の魔力にとりつかれた。そして父に活動につれていってこれたたびたびせがむ。(略)

さて私は、あの青白い光のあやかしの正体がこんなものだったのかがっかりした。しかし、後年、ふたたび、このセルロイドの魔力にとりつかれることになる。

それは、こんならつぱけなものの中へ莫大な資本をつぎこみ、目もくらむような絢爛たる夢をえがくことができる、また、この中に人間の情念を、また高らかな人間の志をこめることができるのだと知ったからだ。そのとき、私はふたたび暗闇のなかで立ちすくむ。

(後略)



本名：廣澤榮一
1924～1996。小田原市幸町(現本町)生まれ。1944年東宝入社、戦後鎌倉アカデミア演劇科に学ぶ。その後、黒澤明、豊田四郎、成瀬巳喜男らのもとで助監督を務め、脚本家に転じ、優れた作品を残した。主要作品「日本の青春」「サンダカン八番娼館・望郷」「わが恋わが歌」「風のかたみ」「筑豊の子どもたち(共著)」「学校」「昭和怪盗伝」「明治撃剣会」。著書「廣澤榮・映画シナリオ集」(宝文館出版)、「シナリオ作法」(ダヴィッド社)、「日本映画の時代」(岩波書店)など。



劇団こゆるぎ座の55周年記念・第48回公演「もうひとつの教室～夜間中学」の様子。作者の廣澤さんはこゆるぎ座のOBである。平成元年に初演されたこの作品は、ファンや座員の熱望により、平成12年に再演された。

皆さんは、初めて映画館で映画を見たときのことを覚えていませんか。「私の昭和映画史」は、作者の廣澤榮さんが、生まれて初めて映画を見たときの驚きと感動から書き始められています。そこには、夜の映画館のイルミネーションのきらびやかだったことや、客席が男子席と婦人席に分かれていて夫婦であっても別々の席で見なければならなかったこと、廣澤さんの生家の「十五屋(書籍・文房具店)」に映画のポスターを張りに来た日活マークの付いた印半纏を着た男のことなど、当時の富貴座や復興館などの映画館とそれにかかわる人々の様子が細やかに描かれています。

また、時の流れとともに、映画少年として自分自身が成長していく過程だけでなく、小田原という町が変化していく様子、そして戦争突入から戦後の復興へ日本という国が変化していく様子が、廣澤さんの目線、自身の映画体験と重ね合わせながら描かれています。

廣澤さんは、助監督として、黒澤明の「七人の侍」、豊田四郎の「雪国」、成瀬巳喜男の「驟雨」などの名作の制作にかかわり、脚本家として、「日本の青春」「サンダカン八番娼館・望郷」「学校」などの優れた作品を残しました。

コンピュータの登場による映像テクノロジーの急激な進歩、レンタルビデオやDVDの隆盛、いわゆる名画座の衰退、シネマ・コンプレックスの台頭など、映画を取り巻く環境が大きく変化してきた今日、小田原が生んだ映画人である廣澤榮さんの著作を通して、映画の原点を思い起こしてみたいかがでしょうか。

このコーナーでは、映画・絵画・写真・小説・詩などの作品に登場する小田原を紹介しています。小田原が扱われている作品を「存じでしたら、市広報広聴室までお知らせください。」 ☎ 33 1261

輝く小田原人

人生をサッカーとともに

山本 富士雄さん

元ベルマーレ平塚(現湘南)DF、
現桐蔭学園高等学校サッカー部監督

「ベルマーレ平塚で天皇杯を制したとき、初めて日本のクラブチーム代表として、日の丸をつけて戦ったんです。試合前にグラウンドで『君が代』を聞いたときは、さすがにシビれました。今でも忘れられません」。山本さんが、心の中の大切なアルバムを開いた。

日本にJリーグが立ち上がった翌年、国中がこれまでにないほどサッカーに熱中した時代に、「Jリーガー山本富士雄」は誕生した。小学校3年生でサッカーを始め、中学生時代から周囲の注目を集めてきた期待の星が、ついにメジャーデビューを果たした瞬間だった。

山本さんは小田原高校を卒業する18歳まで市内酒匂に住み、その後は筑波大学に進学した。小学生のころからクラブチームのジュニアユースに所属し、早くからプロの指導を受ける子どもが多い中、山本さんは地元高校のサッカー部を選んだ。「中学卒業のころ、クラブチームや県内外の強豪高校チームから誘いもあったんです。でも、当時小田原のスポーツ少年団の指導者だった戸田先生が、市内の高校への進学を熱心に勧めてくれました。周囲からも小

田原にとどまっていたほしいとの声が多く届きました。本当にうれしかったですね」。山本さんは、戸田さんの心遣いが今になって本当に身にしみてありがたく感じている。

「いい環境が必ずしもいい選手を育てるとは限りません。いい選手になれるかは、結局は本人の気持ち次第なのです」。小田原高校時代、抜きんでた選手はいなかったが、仲間とお互いに努力し議論したことで、自分なりのプレースタンスを確立できたようだ。「地元で頑張るって大事ですよ。本人も頑張れるし、地元の人も本当に応援してくれる。このような流れがどんどん生まれれば、その地域は盛り上がるのです。小田原にプロのサッカーチームを



小田原市酒匂生まれ。小田原高校を卒業し筑波大へ。大学在学中にはブラジルにサッカー留学し、カズ(三浦知良)らとプレー。28歳でプロデビューし、ベルマーレ平塚で、現在イタリア・セリエAで活躍中の中田英寿らとともにチームを引っ張った。現在は桐蔭学園高等学校サッカー部監督。小田原で小学生サッカー教室も開いている。



天皇杯を制し、日本代表チームとしてアジアカップウィナーズカップに出場した、ベルマーレ時代の山本さん(左)。(場所：平塚競技場)

作れば最高ですね。私の夢の一つです」と山本さんは熱く語った。

現在監督を務める桐蔭学園高サッカー部は、12月に全国高校サッカー選手権大会への出場を果たした。200校以上がひしめく激戦区・神奈川にあって、山本さんが監督になった5年間で、インターハイを含め10回のうち7回の県大会を制するなど、指導者としてもその才能を発揮している。「サッカー選手の選手寿命は短い。でも好きなサッカーとともに人生を送れるのはとても幸せなことです。一生サッカーとかかわっていきたくて考えています」と山本さん。これからどのような第2ステージを見せてくれるのか、楽しみである。

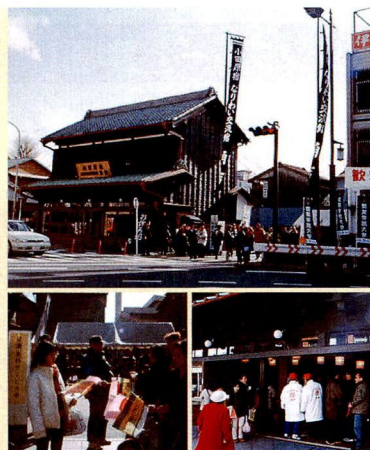


復路7区を走る
関東学院大学の選手

市内にキャンパスがある関東学院大学も出場。相洋高校出身の石井清加寿さんは10区を走り、一つ順位を上げる活躍でした。

無料で振る舞われ、大にぎわいとなりました。

今年、なりわい交流館が箱根駅伝に初登場。往路では、国道1号線のカーブを曲がると、交流館の大きなぼりが目飛び込んできます。そして江戸時代の旅籠の雰囲気をかもし出す建物を横目に、選手は箱根を目指して疾走していきました。ここでは、甘酒が



小田原
彩時記
なりわい交流館、
箱根駅伝に初見参!

WANPAKU

オープン以来、
子ども連れで大にぎわいの
「小田原こどもの森公園わんぱくらんど」。
寒くたって遊んでいる子どもたちは
元気いっぱいです。
みんな、遊びに来てね!



わんぱくらんどなら、 寒くてもへっちゃら!

わんぱくらんど ☎24-3189
公園緑地課 ☎33-1583

「一日ふれあい動物広場」で、かわいい動物たちと遊ぼう!

日時 **2月17日(日)、24日(日)**
10:00~12:00、13:00~15:00



普段はなかなかさわれない動物たちが、ふれあい広場にや
ってきます。ウサギ・モルモット・アヒル・カモ・子牛・七面
鳥・チャボ・ハツカネズミ(17日のみ)・ハムスター(24日の
み)・プレーリードッグ(展
示のみ)などを、触ったり抱
いたりできますよ。動物た
ちと一緒に遊びましょう!



昨年大人気だった
「モルモットふれあいコーナー」も、
好評開催中!

モルモットを抱いたり、ヒツジにえさをや
ったりできます。

日時 3月20日(木)までの平日、13:15~
14:15(土・日・祝日・休園日・雨天日は休み)



新遊具「ノボレンジャー」登場!

プレイゾーンにお目見えしたのは「ノボレンジャー」。ロープに
つかまって、急斜面を登ってみましょう。



わんぱくらんどがパワーアップする!

現在皆さんが利用しているのは、第一期工事で整備した部
分です。このたび第二期工事に着工し、残り半分の園地造成
に取りかかりました。今回着工したところは、面積が7.0ha。
第一期工事分と合わせると、完成後の総面積は12.1haにな
ります。

このイメージは「自然の中で、自分で遊びを工夫して楽し
める公園」。大きな造成はしないで、なるべく自然の地形を生
かし、花の咲く木や実のなる木をたくさん植えて、小鳥やカ
ブトムシがたくさん集まるような公園にします。四季を通じ
て、生き物や植物が観察できるようにする予定です。今から
待ち遠しいですね。